紀州ファスナー工業

特殊ナット強化×大ロット品自動化

和歌山工場で投資計画

紀州ファスナー工業㈱（和歌山県御坊市、中江良一社長）は、高付加価値の特殊ナット生産強化と大ロット品の自動生産体制を両立させる成長戦略を本格化させる。

取材に応じる中江社長

販売部門である紀州プアスナー㈱の前期（2024年8月～2025年9月）の売上高は前年同期比4・9%増の52億円となった。コスト上昇環境の中、生産数量は横ばいも価格転嫁を進めたことで経常利益は横ばいを堅持した。今期もコスト高への対応として価格転嫁を継続しながら1・5%の増収を見込む。賃上げは過去3年間で累計15%に達し、2030年に売上70億円規模への成長を掲げる。

中江社長は「価格転嫁を第一に売上より利益を重視する。仕入先からの価格転嫁を進めたことで社内人件費増を適正に価格へ反映させる」と話す。

生産拠点である和歌山工場は、昨年9月に新事務所棟が完成。来年春には倉庫（1500平方㍍）の着工を予定し、秋の完成を見込む。さらに同工場では大ロット品の自動生産ライン（4000平方㍍）の年内着手を計画している。圧造、タッピング、洗浄、検査、梱包まで無人化し、段取り以外は人が在しないタイプ。特殊ナットは特殊形状に加え、強度や緩い専用工場とする計画で、売上の2割を占める大ロット品の収益力向上を図る。まず2ラインを試験導入し、稼働から2年後に10ライン体制まで拡大する構想。

大ロット品の自動化を進めることで、既存工場のラインに人材を配置し、高付加価値の特殊ナット生産を強化する狙いがある。特殊ナットは特殊形状に加え、強度や緩み止めなどの機能性を付与した製品で、同社の重点領域となる。また、転造ネジナットの開発も進行中で、切粉が発生しない転造タップの特性を生かし、電動化に伴うコンタミ回避需要が高まる自動車産業向けの供給を見込む。

中江社長は「自動生産工場は性能の優れた設備、これまでの技術蓄積を生産の両立にも、生産性と収益性の向上を図り、次の成長ステージを目指す。

販売を前提とする。

同社は高付加価値特殊ナットとロット品自動生産ラインの両立が鍵となる。来年からの造精度が不可欠。転造ネジナットの前工程の圧造がなければ実現できない。例えばタッピングの自動化には材料品質と圧